

第8章 河道特性

8 - 1 河道の特性

小矢部川は富山、石川両県境の大門山(標高 1572m)に源を発し、県下 5 大河川のうち最西部を北流し富山湾に注ぐ。河床勾配は源流から刀利ダムまでの上流部は約 1/100 の急峻な地形で、刀利ダムから小矢部大堰までの中流部と小矢部大堰から河口までの下流部ではそれぞれ 1/400 ~ 1/800、1/800 ~ 水平に区分され、富山県内の河川では比較的緩勾配の河川である。

小矢部川は富山、石川県境に沿って北流し、砺波平野に出て、南砺市において山田川を合わせのち、小矢部市に入り、渋江川、子撫川を、さらにその下流、高岡市において祖父川、千保川等を合わせて、庄川扇状地の末端を曲流しながら日本海に注ぐ。

勾配が急で流れも速い多くの県内河川の中において、小矢部川はこの様な特徴を上流部で示すものの、全流路の 70% が平野部を貫流するため、下流部は富山県内の他の主要河川には見られない蛇行・緩流という特徴を持っている。

小矢部川の源流付近は、白山系の噴出岩のためかなり急峻で刀利付近を除いては全く平坦地はなく流路は急勾配である。西部に広がる加賀山地と宝達丘陵は軟弱な新第三紀層で、上部の地層は泥岩、砂岩、凝灰岩で構成されている。南部の飛騨山地は中生代の手取層群(礫岩・泥岩・砂岩)よりなっているため浸食されやすく、下流は広大な平野をつくっている。丘陵の周辺に第四紀層が段丘や台地を形成しているのも特徴である。

小矢部川の流路は、庄川から運ばれてきた砂礫によってできた大扇状地の発達によって西側の扇端を流れ、下流で大きく蛇行している。小矢部川によって形成された平野が狭いのは、庄川扇状地の堆積面があまりにも大きかったためである。

砺波平野は標高約 100m の庄川町青島付近を扇頂とする広大な扇状地だが、扇端の標高 10m の等高線が著しく屈曲しているのは、湧き水で浸食されたのと西側から小矢部川に浸食された結果である。この扇状地の東側には旧扇状地が段丘化した芹段野台地があり、南砺の高清水断層崖の下では、急斜面を流れる小河川の扇状地が複合して傾斜した平野をつくっている。

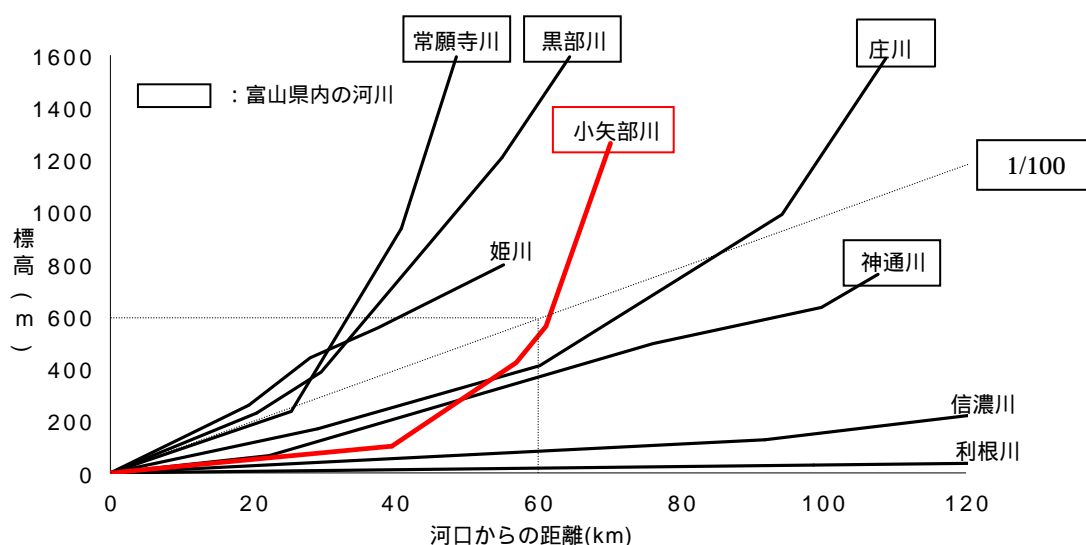
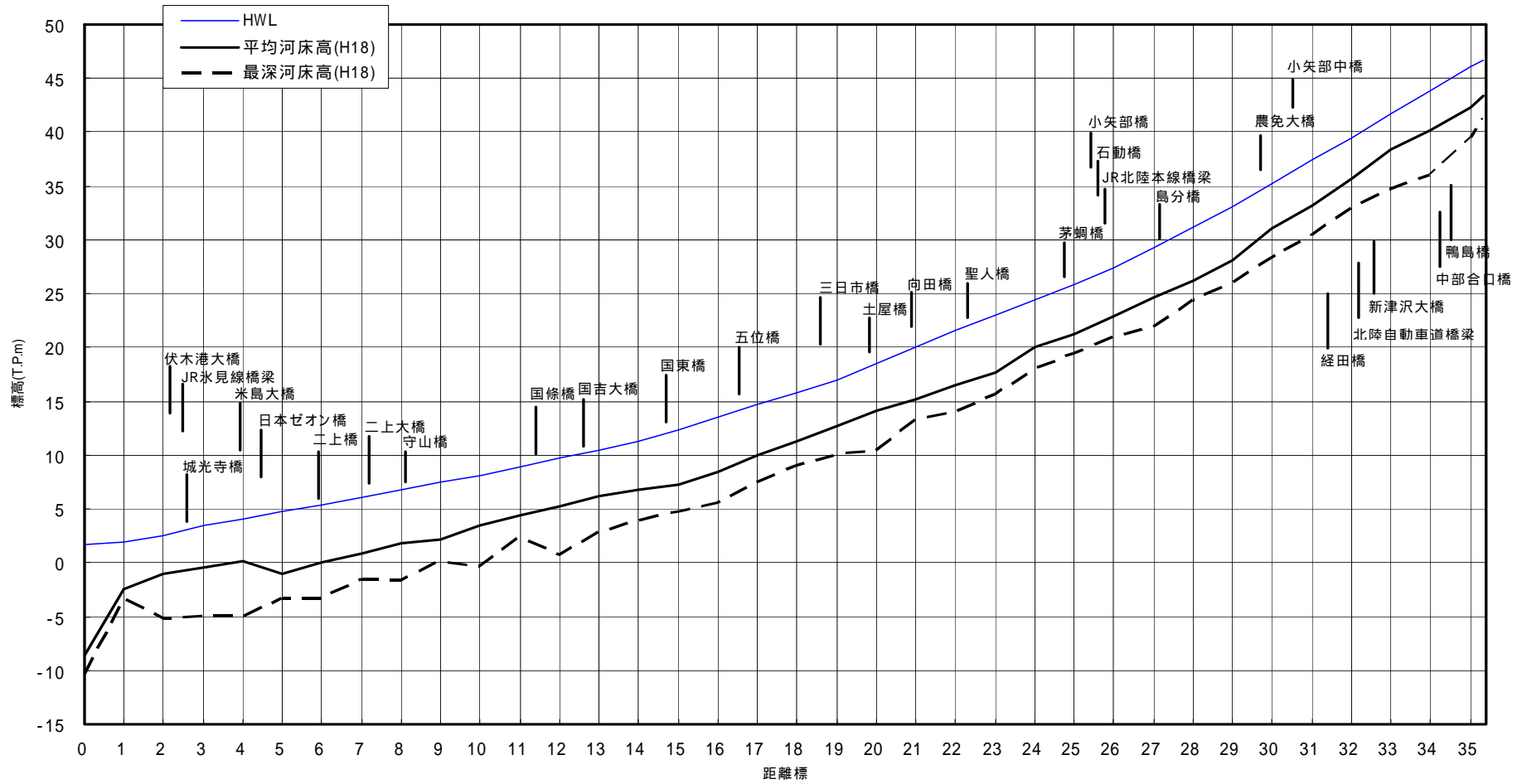


図 8-1 他河川との比較



距離標	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0	31.0	32.0	33.0	34.0	35.0	35.2 +126
計画高水位 (T.P.m)	1.74	1.98	2.54	3.46	4.12	4.78	5.41	6.11	6.82	7.46	8.08	8.92	9.70	10.46	11.33	12.39	13.59	14.73	15.76	17.01	18.50	20.06	21.58	22.98	24.43	25.89	27.40	29.24	31.14	33.03	35.17	37.41	39.51	41.72	43.86	46.05	46.7
平均河床高 (T.P.m)	-8.63	-2.44	-1.06	-0.49	0.15	-1.01	0.02	0.92	1.81	2.19	3.48	4.38	5.20	6.16	6.77	7.28	8.41	9.93	11.23	12.67	14.13	15.21	16.53	17.67	20.07	21.24	22.87	24.60	26.19	28.15	31.11	33.20	35.68	38.43	40.14	42.35	43.4
最深河床高 (T.P.m)	-10.42	-3.41	-5.20	-4.96	-4.91	-3.26	-3.31	-1.47	-1.57	0.13	-0.29	2.38	0.69	2.85	3.93	4.82	5.66	7.54	9.02	10.09	10.47	13.24	13.95	15.70	18.03	19.43	20.95	21.97	24.37	25.92	28.29	30.41	32.99	34.71	36.04	39.51	41.2

図 8-2 小矢部川現況河道縦断面図